

第3章 震災を継承して防災の未来づくり

1 大規模災害に備えた対応

(1) 原子力災害への対策と津波ハザードマップの作成

平成23（2011）年3月の原子力発電所の事故以来、市は国や東京電力㈱に対して、県内全ての原子力発電所の廃炉決定や安全対策の確立、現場作業員の労働環境確保、風評払拭のための継続的な支援などの申し入れを行うとともに、万一の原子力災害に備えて、市地域防災計画（原子力災害対策編）と市原子力災害広域避難計画を策定した。

また、平成24（2012）年8月、市は東日本大震災での浸水域を示した「津波ハザードマップ暫定版」を作成した。平成24年10月には、国土交通省が「津波浸水想定の設定の手引き」を策定。これを基に、市地域防災計画の見直しを行うとともに、満潮時や地盤沈下などの悪条件

下での最大クラスの津波をシミュレーションし、平成26（2014）年10月に新たな「津波ハザードマップ暫定版（第2版）」を発表した。第2版では、津波浸水域が東日本大震災の18km²から43km²と約2.4倍に広がり、想定される避難者は約4万4千人に達すると示された。（写真3-1）



■写真3-1 市津波ハザードマップ（第2版）・勿来地区〔平成26（2014）年11月 いわき市撮影〕

(2) 避難訓練

震災後の混乱が落ち着きながらも、余震が続く不安定な日々の中、海岸に近い幼稚園や保育所、小・中学校では、津波避難訓練が行われた。平成25（2013）年8月には、「市総合防災訓練」をいわき市全域で実施した。沿岸部全域では「津波避難訓練」、内陸部全域では「地区防災訓練」を実施したほか、初めて久之浜・大久地区の区長や民生児童委員、消防団員を対象とした「原子力災害図上訓練」を実施し、その後も市総合防災訓練および市原子力防災訓練を継続して実施している。

(3) 大規模災害時の防災拠点を整備

市は、平成29（2017）年4月、21世紀の森公園内に「屋内多目的運動場」を設置した。

物資の受け入れや保管、配分に円滑性を欠いた震災の教訓から、交通の利便性が高く、速やかに物資を集積、市内各所に分配するなど、初期対応の強化が期待できることから設置したもので、非常時には大量の支援物資を効率よく受け入れ、迅速に被災者に供給する災害時拠点施設となる。（写真3-2）



■写真3-2 屋内多目的広場（いわきグリーンベース）が完成・21世紀の森公園〔平成29（2017）年3月 いわき市撮影〕

2 東日本大震災の記憶・記録を未来に

(1) 語り継がれる震災

過去の大震災、特に阪神・淡路大震災以降、被災経験を後世の人々に語り伝えようとする「語り部」の存在が注目されるようになった。

語り部に参加する動機はさまざまであるが、中にはボランティア活動を通じて被災地への思いが強くなり、語り部になる方もいる。

語り部の内容は、震災当初は津波の脅威や被災した臨場感をがれきが残る中で傳承することからはじまり、がれきが撤去されて復興土地区画整理事業が進み、現地で震災を想起することが困難になると、写真パネルや映像を使つての活動に変化してきた。

また、語り部自身にとつても、被災体験のつらさを吐露することによって、気持ちの浄化が進み、同様の活動をする人との交流によって情報交換や自らの震災への掘り下げができ、活動の充実が図られる契機となった。

(2) いわき市における震災継承の取り組み

平成28(2016)年5月には、いわき市の震災経験を改めて捉え直し、震災の記憶や教訓を風化させず、確実に後世に伝えていくことにより、災害に対する危機意識や防災意識の醸成等に活用していくため、「市震災メモリアル事業方針」を策定し、令和2(2020)年5月に震災メモリアル中核施設「いわき震災伝承みらい館」(以下、「みらい館」)を、薄磯三丁目地内にオープンした。「みらい館」には、展示室、多目的学習室、展望デッキを配置し、震災資料の収集・保管・展示、震災の教訓を体験的に学ぶ場の設定、防災・減災に関する情報の受発信などの機能を備える。(写真3-3、3-4)

「みらい館」では、「いわき・ら・ら・ミュウ」内にあるライブいわきミュウじあむ「3.11いわきの東日本大震災展」、「市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館」、さらには市内被災沿岸部で整備された防災緑地、久之浜町久之浜の稲荷・秋葉神社、田人町の井戸沢断層(いとざわしおのたいら塩ノ平断層)などの震災遺構などを結ぶ拠点的な役割を果たしていくこととしている。



■写真3-3 「いわき震災伝承みらい館」の落成式
〔令和2(2020)年5月 いわき市撮影〕



■写真3-4 「いわき震災伝承みらい館」内の展示内容
〔令和2(2020)年5月 いわき市撮影〕

(3) 未来に伝承する力

震災後、市は防潮堤のかさ上げや津波防災緑地の建設などの復興を進めるとともに、被災した多くの市民は震災復興土地区画整理事業の造成地や災害公営住宅へ移り、新たな生活を始めており、直接的なハード整備を終え、「創生」という新しい段階に差し掛かろうとしている。

平成29年3月、薄磯地区で犠牲となった住民の名前を刻んだ「薄磯地区東日本大震災慰霊碑」が修徳院の隣に建立された。碑には「大きな地震が来たらすぐ避難する」と誓いの言葉が記された。(写真3-5)

久之浜・大久地区の「東日本大震災追悼伝承之碑」には「大地震が起きたら大津波が来る。直ぐ逃げろ、高台へ。一度逃げたら絶対戻るな」と赤字で刻まれている。自分たちの経験を教訓とするよう後世に呼び掛けている。

令和3(2021)年3月、東日本大震災の惨事から10年を迎えた。当然のことながら、0歳児は10歳にまで成長し、確実に大震災を知らない世代が増えていく。教育現場では、震災を経験していない世代を対象に、防災に関する映像やかるたを使った授業など、さまざまな試みが成されている。(写真3-6)

その一方で、地球温暖化や世界規模の経済活動は、これまでの自然災害に変容をもたらし、今後起こり得る地震や風水害は、これまでとは違ったものになるだろう。

現に、令和元年東日本台風により、いわき市はこれまでにない甚大な被害を被っている。

このような自然環境にあって、私たちはどのように生命を守り、被害を最小限に食い止めることができるか試されていると言えるだろう。震災経験をどのように伝承し備えを怠らないか、また進む風化をどれだけとどめることができるか、課題は大きい。

東日本大震災によって、原子力発電所の事故による長引く風評や廃炉への道筋など、多くの課題を残しつつ、多くの貴重な生命や財産、文化的な価値を持つものが失われ、その代わり多くの糧を得て新しい伝承を紡ぎ出そうと歩み始めている今、その歩みを確かなものにするためには、新しい力が必要である。先人が築いてきた有形無形の経験や英知を生かし、どのように伝えることができるかが、「災害を克服する力強いまち・いわき」という新しい「いわき市」の災害対応力を備えたまちづくりにつながる。(写真3-7)



写真3-5 薄磯の修徳院脇に立つ慰霊碑 [平成29(2017)年3月 いわき民報社撮影]



写真3-6 防災教育授業・豊間小学校 [平成28(2015)年6月 いわき市撮影]



写真3-7 子どもたちの祈り「東日本大震災2回忌供養キャンドル」・豊間海岸 [平成24(2012)年3月 いわき市撮影]

写真から見る復興と創生

久之浜



被災した久之浜市街で火災が発生（平成23年3月12日午前8時42分 福島県消防防災航空隊撮影）



久之浜震災復興土地区画整理事業や海岸防潮堤、大久川堤防が完成（平成31年3月 いわき市撮影）



被災後の久之浜字北町（平成23年3月16日 吉田裕徳氏撮影）



新しい家屋が建ち始めた久之浜字北町（令和元年7月 医療創生大学震災アーカイブ室撮影）



がれきで埋まった旧街道・久之浜字南町（平成23年3月11日午後4時40分 いわき市撮影）



防災緑地の緑が生育・久之浜字南町（令和元年7月 医療創生大学震災アーカイブ室撮影）



四倉町字東四丁目・字西四丁目に押し寄せる津波（平成23年3月11日午後4時39分 小泉屋文庫撮影）



四倉町字東四丁目の現在の街並み（令和元年12月 医療創生大学震災アーカイブ撮影）

四倉



津波で打ち上げられた四倉港の小舟など（平成23年3月12日 鈴木大氏撮影）



防潮堤が完成（平成30年9月 いわき明星大学震災アーカイブ室撮影）

写真から見る復興と創生

薄磯



被災した平薄磯市街（平成23年11月 いわき市撮影）



薄磯復興土地区画整理事業、防潮堤のかさ上げなどが完了（平成31年3月 いわき市撮影）



被災した海沿いの住宅地・平薄磯南街（平成23年3月30日 丹野稔氏撮影）



多目的広場・駐車場・防災緑地を配置（令和元年9月 医療創生大学震災アーカイブ室撮影）



壊滅的な被害を受けた平薄磯市街（平成23年3月30日 丹野稔氏撮影）



薄磯震災復興区画整理事業が進行（平成28年3月 佐藤貴行氏撮影）

平豊間



震災がれきの仮置き場となった豊間中学校の校庭（平成23年4月27日 いわきジャーナル撮影）



豊間中学校新校舎（平成29年6月 いわき明星大学震災アーカイブ室撮影）

写真から見る復興と創生

平豊間



豊間八幡神社から見る被災した平豊間字八幡町・字柳町（平成23年3月27日 遠藤一利氏撮影）



新しい平豊間市街が形成（令和元年9月 医療創生大学震災アーカイブ室撮影）



津波によって大きな被害に遭った平豊間字塩場周辺（平成23年3月30日 いわき市撮影）



豊間海岸に設置されたブロンズ像（令和元年9月 医療創生大学震災アーカイブ室撮影）

小名浜



津波が押し寄せる臨海部や小名浜市街（平成23年3月11日午後3時50分 福島県消防防災航空隊提供）



小名浜駅の跡地にイオンモールいわき小名浜が完成（平成30年6月 いわき市撮影）



津波により破壊されたアクアマリンパークデッキ（平成23年3月25日 いわき市撮影）



復旧したアクアマリンパークデッキ（平成27年3月 いわき市撮影）

写真から見る復興と創生

小浜



小浜町渚の県道泉岩間植田線沿道（平成23年3月12日午前6時 いわき市撮影）



県道の拡幅工事が完了（平成30年9月 いわき明星大学震災アーカイブ室撮影）



防潮堤を乗り越えてきた津波で被災・小浜町（平成23年3月25日 いわき市撮影）



完成した小浜震災復興土地区画整理事業・防潮堤（令和元年11月 いわきジャーナル撮影）

岩間



被災した岩間町岩下（平成23年4月10日 鈴木大氏撮影）



防潮堤かさ上げ・防災緑地・県道付け替えなどが施工（平成28年7月 いわき市撮影）



津波が押し寄せる岩間町（平成23年3月11日午後3時42分 常磐共同火力勿来発電所撮影）



石炭ガス化複合発電施設（IGCC）の建設が進む岩間町（平成28年11月 常磐共同火力勿来発電所撮影）